

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

113号

「みんなが反対すれば戦争はやめさせられる！」

平田 義

この言葉は、沖縄の伊江島で非暴力の精神で戦争平和を訴え続けた阿波根昌鴻さんが作られた「わびあいの里」の壁に掲げてあります。1959年に国際人権連盟議長のロジャー・ボールドウィンさんが沖縄にいられた際に、阿波根さんが「日米両政府が土地を取り上げ、核戦争の準備をしている。止めるにはどうしたらいいか」との質問に、「みんなが反対すれば、やめさせられる」と答えたとの説明書が有ります。

ロシアとウクライナが戦争をしています。世界中

のみんなが戦争に反対すれば戦争はやめさせられることができるはずですが、残念ながら未だに終息する気配はありません。それどころか、この事態に乗じて、日本は戦争できる国づくりへと邁進しています。

今号では、このような状況に対して、沖縄辺野古で新基地建設阻止行動に携わってこられた、山田啓人さんに、「いま思うこと」を寄稿していただきました。ご一読いただき、共に平和をつくりだす働きを押し進めていきましょう。

いま思うこと

日本基督教団藤沢大庭教会牧師 山田啓人

ウクライナのこととて心を痛めておられる方々が多いと思います。私自身はこの出来事に出会って、ロシアの政府が主張することはまったく理解できませんし、プーチンがやろうとしていることも、理解どころか心からの怒りをもって見えています。人の命を殺し続け、誰一人として幸せにはならない暴挙に出たプーチンには、未来はありません。一日も早く、ロシアの人たちがこの暴挙を暴挙だと認めることができるように、私は祈り続けます。

普段、聖書というものにあまり馴染みのない方にとっては申し訳ないのですが、いま思うことのきっかけをいただける物語がありますので、以下に引用しながら記します。ユダヤ教聖書の中に列王記(上・下)という作品があります。上巻の19章のところに、イスラエルの預言者エリヤが命を狙われている記事があります。

命を狙っているのはイゼベルという王妃で、彼女は

北イスラエル王国(南北に分裂していた)の王アハブ(在位・紀元前871～852年)の妻でした。イスラエルから見れば外国人で、おそらく政略結婚だと思われませんが、彼女は自分の民族の神・バアルの崇拝を強要して、それに抵抗する預言者やユダヤの神信仰に忠実な人たちを迫害したのでした。

列王記上19章には、そのイゼベルの迫害から逃亡する預言者エリヤの物語が置かれています。命を狙われているエリヤは必死に逃げるのですが、やがて心もからだも疲れて弱くなり、神に願います。「神よ、もう十分です。私の命を取ってください」と。しかし神は言うのです。「起きて、食べよ」。疲れ果てたエリヤに、神は水と食料を与え、「食べて元気を出せ」と言うのです。

さらに逃亡の旅を続けるエリヤですが、再び恐れとあきらめが襲ってきたのでしょうか、神に訴えかけるように話します。自分は今まであなたに仕えてきた。

でも、自分の言葉は聞いてもらえず、同じ預言者としての働きをしてきた同胞は殺され、自分も狙われている。

でも、神はエリヤに関心を持ち続けます。神の働きの責任を与えられた者を守ろうと、彼がどこに行っても神は「エリヤよ、ここで何をしているのか」と問い続けるのです。命を狙い奪う者ではなく、命を守る働きをする人間のそばに、神はいつもおられるのです。

興味深いのは、エリヤの声に神が応えている時に、激しい風が吹いて山を裂き、谷を砕いたとあって、さらに風の後に地震が起こり、地震の後に火が起こったとあります。そして最も興味深いのは、激しい風の中にも、山を裂き谷を砕いた出来事の中にも、地震の中にも、そのあと起こった火の中にも、神はいなかった、と証言されていることです。

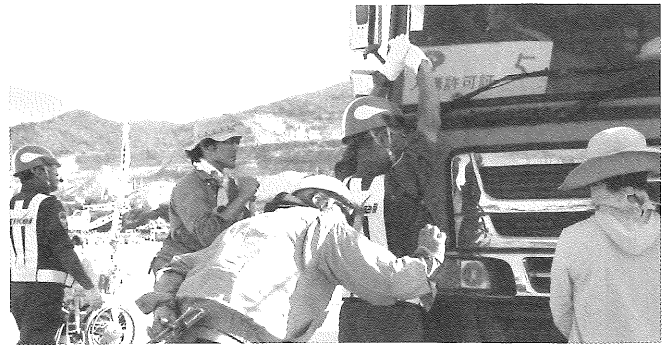
ここに、重大な問いかけがあります。激しい風、山を裂き谷を砕く力、地震、火。これらはすべて「力」を象徴するものだと思いますが、自分も含めて人間は、このようなものに象徴される「力」に寄り頼むことが多いです。自分を守ってくれそうなもの、他からの脅威に抵抗できるようなもの、「安心」を与えるようなもの。一見、そのようなものは魅力に感じますし、これがあれば安心などと思ってしまう思いに駆られます。

ところが、です。最後に聖書の証言者たちは、「力」あるものの中には神はいなかった、と言った後、「ささやくような声があった」と書き記しています。ささやくような声の中に神はいた、と証言しているのです。これは、私たちが心を澄ませて、集中させて、そうしないとなかなか気づかないことの中に、実は神の働きがあることを知らせてくれていることだと思います。

米軍三沢基地所属 F16 戦闘機、米海軍原子力空母ロナルド・レーガン艦載機 F18E 戦闘攻撃機、ハワイ州・ヒッカム空軍基地所属 F22 ステルス戦闘機、岩国配備 EA18E グラウラー電子戦機、同基地配備・最新鋭ステルス戦闘機 F35B。これらは、5月26日から6月1日にかけてのわずか1週間の間に、沖縄・嘉手納基地に飛来した外来機です。合計は32機。隣を歩いている人と会話もできない爆音を響かせながらです(「沖縄タイムス」6月3日朝刊)。

こんなものをいくら飛来させても、そこに神はいないのです。台湾に近い与那国島、さらに石垣島、宮古島にどんどん増強されている自衛隊基地ですが、そんなものをいくらつくっても、そこに神はいないのです。辺野古に基地を造っても、沖縄に集中する約70%の

在日米軍基地にも神はいません。



▲本部(もとぶ)の島ぐるみ会議の一人がダンプを阻止している姿と、監視している作業員(本部港にて)

そんな人間の命を奪うものの中ではなくて、このような存在にないがしろにされている声の中に、ないがしろにされ続けてきた存在の中に、また、その存在を生むことがおかしいとして声を上げている人たちの中に、「力」を持つ人間から「ささやくような声」としか扱われていない人たちの中に、さらに、ささやくような声しか出せない人たちの思いを声としていこうとしている人たちの中に神はおられると思うのです。

愛隣館の働きにかかわっておられる皆さんには、とっくにお分りのことを書いてしまいましたが、みなさんの思いに連なり、また一緒に会いや学びをしていきたいと願いつつ、思うことを記してみました。原稿を書く機会が与えられて聖書を見つづけたことは、私たちにも神はいつも関心を持ち続けてくれて、いつも問いかけてくださっているということだと思いました。「どこにいるのか。ここで、何をしているのか」と。

この神からの問いかけに答えて、「ささやくような声」を誰があげていて、どこであげられているのかを探し続けて、「力」によって聞こえなくされている声やつぶされている声を、当たり前前の「声」としていき



たいと思わされています。たぶん、私たちの選択する平和創造への方向性は、そこにあるのかなと思います。

▲かつて強制連行されて従軍慰安婦にされた女性たちに對する慰霊の碑

アリランの碑
アジア・太平洋戦争当時この近くに日本軍の慰安所があった朝鮮から連れてこられた女性たちがツガガにて洗濯の帰りにここに休んでいたことを記憶している悲惨な戦争を二度と起こさぬため世界の平和共存の想いをこめこの碑を後世に伝えたい。
2008年9月7日
与那覇博敏

むかいじま

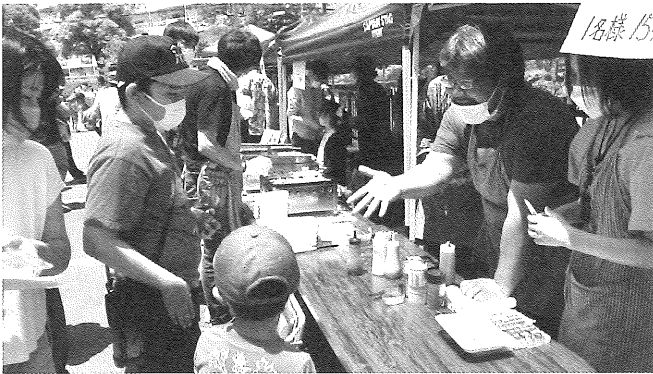
向島にっこりフェスティバル

インクルーシブな社会を目指して！

出会いつながる新愛隣館にて、5月29日にっこりフェスティバルを開催しました。新しいこと尽くしのにっこりフェスティバル、沢山の笑顔に包まれて無事に終了することができました。

平和へのメッセージを掲げ、出会い、お互いを知り合える機会をちりばめました。

ウォークラリーでは子どもたちが出店者のところを回って、じゃんけんをしたりクイズに答えたり沢山の交流が生まれました。



当日の声と写真を紹介します！

- ・対面では出会える機会が減っている中で、今回にっこりフェスティバルで繋がれて嬉しい。
- ・みんなが「笑顔」で楽しそうにしているなあと感じました。
- ・子どもたちとも交流して楽しかった。
- ・多くの人に来ていてみんながにっこりフェスティバルを待ち望んでいたんだと感じた。



- ・タイダンス、楽しかったです！メンバーが増えるかも！???
- ・ウォークラリーでは小さい子どもも参加できるようになっていて、インクルーシブな出逢いと笑顔がたくさん出来る時間だったと思います。

平和メッセージ



ロシアとウクライナで戦争が起こっています。あらゆるものの「いのち」が奪われ、あたり前の暮らしが破壊される戦争は絶対に許されません。人類は過去に戦争の悲惨さを幾度も目の当たりにし、二度と起こらないように叡智を集めてきていたはずですが、日本も過去に今のロシアと同じように隣国を侵略し多くの人々の命と生活を奪いました。その結果、原爆が落とされ、沖縄は戦場とされました。私たちは、武力を行使し人と人が殺し合う戦争が一日も早く終結し、平和な社会が回復することを望みます。

にっこりフェスティバル実行委員会

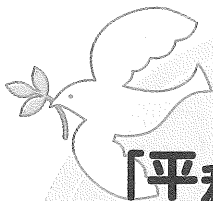
選挙が終わりました。いよいよ戦争できる国づくりの総仕上げの憲法改悪が目論まれています。正念場です。決して諦めない。



- ・吉本興業の漫才、シュールで面白かったです。

- ◎今年も、子ども達と一緒に平和を祈念してアオギリの植樹を行いました。しかし、残念なことに1週間後に抜かれてしまいました。3度目です。決して許されない行為で憤りを感じます。不屈の精神で平和をつくりだすために、アオギリは植え続けます。



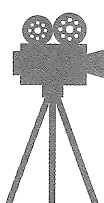


「平和」をつくる集会

8月6日(土)
8:00～8:30

場所：中央公園アオギリ前

原爆犠牲者への追悼を祈り、平和への思いをつないでいく集会です。どうぞお越しください。




なつやすみ平和映画上映会

「この世界の片隅に」


8月11日(木)

① 10時 ② 14時 ③ 18時

会場：愛隣館野の百合保育園ホール



この世界の片隅にの
にじいろプロジェクト、
イエス団京都ブロック
共催



入 場 無 料

夏期献金のお願い インクルーシブ社会の実現を！

みなさまのお支えにより、ここまで活動を続けてくることができました。感謝です。

コロナ禍で、皆さまにおかれましても、大変な状況だと存じ上げますが、「インクルーシブな社会の実現」を目指す愛隣館の活動をお支えいただけませんか。どうぞよろしくお願いたします。

<目標金額> 300万円

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます

郵便振替：01020-5-39321

口座名義：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター



向島地域で車椅子を使用し、1人暮らしをされているMさん。20数年前から、愛隣デイサービスセンターを利用されています。

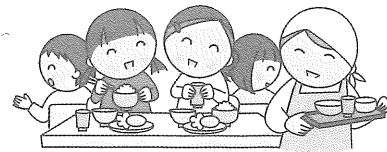
Mさんは、昔から絵画や制作活動を好んで取り組んでおられました。玄関にはMさんが制作されたパステル画が飾られています。ここ数年は、Mさんの想いを短歌で表現されていますので、今回はその一部を紹介したいと思います。

白杖は全盲者だけのものでない
目に障害ありと伝えるもの

動くならつかめばいいと君は言う
神経が違うそれは無理だぜ

2022年4.5.6月の活動

- 4/2-8 お花見 at むかちゅうセンター
- 4/9 みんな食堂
(故矢吹文敏さんを偲ぶ芋煮会)
- 5/7 こどもおとな食堂「ひまわり」
- 5/28 ほたるの夕べ
- 5/29 向島にっこりフェスティバル
- 6/4 こどもおとな食堂「ひまわり」
- 6/26 向島元気バザール参加
- 7/10 喀痰吸引第3号基礎研修



編集後記

▼113号のご意見ご感想お聴かせ下さい。(さ)

▼選挙が終わりました。いよいよ戦争できる国づくりの総仕上げの憲法改悪が目前に迫ってきています。正念場を迎えました。凶弾に倒れた安部元首相の遺志を受け継ぐという謳い文句に騙されて、雰囲気流されてはいけません。今こそ、私たちは憲法を読み直し、その価値を再確認すべき時がきています。日本国憲法の前文には以下の言葉があります。「日本国民は、恒久の平和を念願し(中略)平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、いる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。」崇高な理念です。闘いはこれからです。